

音楽が始まる前に

響 敏也

(作家・音楽評論家)

{本当の大人の生き方を聴く}

あきれほど色んな人がいて、
ため息が出るほど様々な生き方がある。
たとえば、人より目立って生きること。

これには特別な才能と運が要るようである、じつは案外やさしい。
変わったこと奇妙なことさえすれば、誰だって目立ってしまうから。

人々のなかに紛れて生きるのも、苦勞は要らない。
存在感がなければ、誰だって群衆に紛れてしまう。
やがて人々から忘れられる。

けれど、地味に生きる、地味に生き抜く、
これは誰にでも出来る芸当じゃない。
いたずらに目立つことなく、はかなく紛れることなく、
それでいて確かに自分を保っている…
地味に生きるとは、こういうことなのだ。

地味には、表向きの意味の「華やかさがなく目立たない」というだけでなく、

「控えめで飾り気なく質素で堅実」の意味がある。

さらに「地味」を、「ちみ」と読めば、

「実りをもたらす地面の力、土の力」の意味になる。

そうなのだ。「地味」とは…大地のような許容度と包容力で、

すべての人が花開く季節を創り出す才能だ。

「派手」も「華やか」も、みんな地味の上で成り立っている。

地味とは、本当の大人だけが知る奥行きのある生き方だ。

きょうの宮川彬良とアンサンブル・ベガ(アンベガ)は、

題して《地味って「じいん」と来るなあ…》。

音楽の地味が、あなたの席に届けば、

心に「じいん」と大人が響く。